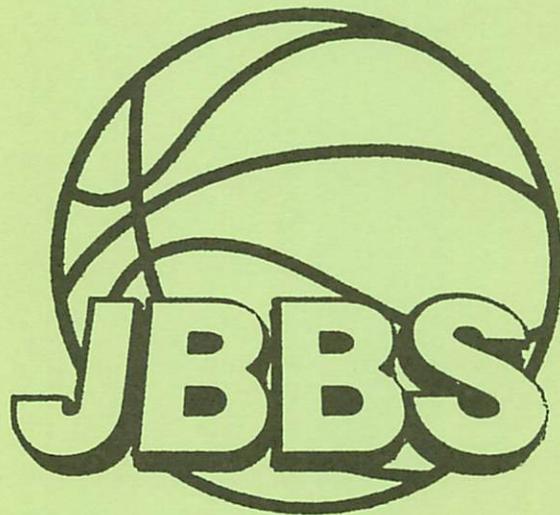


バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:45



2010年5月

NPO法人 日本バスケットボール振興会



手にとった瞬間、キミは驚くはず。
その翼のような軽さとしなやかに。
1gでも軽くするために、あらゆる素材を
厳選し構造を何度も検証し
そして遂に、軽量でありながら
優れたクッション性と包み込む
ようなフィット感を実現させた。

夢は必ず叶うと信じるための1足。

ウエーブホープネオ

希望という名の翼、新登場。

WAVE HOPE NEO



キミに翼を。

目 次

- 理事会と定期総会を開催…………… 3
- 第3回全国シニアバスケットボール交歓大会…………… 16
- JBL 2009～2010シーズン終了…………… 18
リンク栃木ブレックス初優勝
- 栄光の陰に努力あり…………… 21
JBL初優勝「リンク栃木ブレックス」山谷代表
- WJBLも全日程終了…………… 27
女王には2年連続JOMOが輝く
- 半世紀前のアジア大会…………… 29
1962年INインドネシア・ジャカルタ
- 会員だより
バスケットボール部活に見る現代中学生気質…………… 蒲田尚史…………… 33
バスケットボールと共に…………… 田中博行…………… 35
シニアバスケットの素晴らしさ…………… 山上久夫…………… 37
代々木への夢、再び…………… 大関由美子…………… 39
- 男子日本代表チームのヘッドコーチ決まる…………… 41
- 男女日本代表チーム国際親善試合で強化…………… 43
- 訃報・追悼文…………… 45
- プラザ こぼればなし…………… 49

第3回全国シニアバスケットボール交歓大会

[普及部]

昨年に続いて第3回目となる全国シニアバスケットボール交歓大会が、去る5月8日（土）代々木第二体育館において振興会の主催で開催された。

出場資格は男子60歳以上、女子50歳以上だが、遠くは北海道から85歳の方が参加されたり、兵庫県からは神戸シルバーキッズチームが男女とも参加した。この大会は大変な人気で、今回も参加者は100名を越え、男女4チームが6分クォーターの試合を各チーム2ゲームずつ戦った。



また、個人参加の方が多かったり、人数がそろわないチームがあったりして混成チームとなったところもあったが、そこは高齢者ゆえかすぐにお互いがチームに溶け込んでバスケットを楽しむ姿があちこちで見られた。

参加者は、バスケットの殿堂ともいえる代々木第二体育館のコートに立てることが大きな喜びとなっているようで、随所で好プレーが続出したが、3Pなどのロングシュートは殆どの方がボースハンドでのシューティングだったことも昔を偲ばせる一面か。

大会終了後の懇親会には60名余りの方が参加、試合の後のビールがよく利いたせいか、途中からは参加チームを代表してのかくし芸大会に発展。

ちなみに平成21年度新会員の殆どは、この大会の参加者であった。高齢者の健康を増進するとともに生涯バスケットを目指して始まった交歓大会だが、会を追うごとに内容も充実し、今回は坂本理事が考案した「ふくろう」をあしらったトレードマークも出現した。



男子 CokiCokiチーム



男子 埼玉チーム

試合では昨年に続いて男女とも6号ボールが採用されたが、6分クォーターと併せて「我々にはこの程度がちょうどいい」というご意見も。参加者の皆さんは、ご自分の状態をきちんと把握されているようで、怪我人もなくさすがベテラン選手たちの大会だった。

【大会の結果】

— 男子 —

CokiCoki (千葉)	40	—	43	埼玉
シルバーキッズ (兵庫)	29	—	27	東京・神奈川 混成
東京・神奈川 混成	26	—	33	CokiCoki (千葉)
埼玉	35	—	25	シルバーキッズ (兵庫)



男子 シルバーキッズ チーム



男子 東京・神奈川 混成チーム

— 女子 —

PARIS-D東京	24	—	28	入間テンダース (埼玉)
長野クラブシニア	35	—	16	シルバーキッズレディース (兵庫)
シルバーキッズレディース (兵庫)	16	—	37	PARIS-D東京
入間テンダース (埼玉)	45	—	14	長野クラブシニア



女子 PARIS-D 東京 チーム



女子 入間テンダース チーム



女子 長野クラブシニア チーム



女子 シルバーキッズ チーム

JBL 2009～2010シーズン終了

リンク栃木ブレックス初優勝

[編集部]

昨年10月3日に開幕した日本バスケットボールリーグ（JBL）は、各チーム6回戦総当たりのレギュラーシーズンを終えて上位4チームがプレーオフセミファイナルへ進出し、更にその勝者がプレーオフファイナル戦でJBL日本一を決定する方式で今シーズンを終えた。

その結果、今シーズン日本一に輝いたチームはリンク栃木ブレックスで、JBL加入3年目にして初優勝するといった快挙。リンク栃木ブレックスの本拠地である栃木県宇都宮市では、ファイナル戦で3連勝しての初優勝に対して地元全体が盛り上がり、優勝パレードも行われるといった盛況ぶりで、地元に着しながら戦ったチームを多くのファンが祝福した。

リンク栃木ブレックスは、レラカムイ北海道と並んでJBL中で2チームだけのプロチームだが、地元に着した活動を続けたことによって地元で開催した試合は毎回満員になるといった盛況ぶり、観客総動員数もシーズンで10万人以上となりJBL中で第1位。今回の優勝は日本のバスケットボールをメジャー化へ導くようなチーム活動が実った感じで、バスケットボール関係者が学ぶべきところは大きであろう。

[レギュラーシーズン成績]

第1位	アイシンシーホース	31勝11敗	プレーオフ進出
第2位	リンク栃木ブレックス	27勝15敗	プレーオフ進出
第3位	パナソニックトライアンズ	25勝17敗	プレーオフ進出
第4位	日立サンロッカーズ	23勝19敗	プレーオフ進出
第5位	東芝ブレイブサンダース	22勝20敗	
第6位	トヨタ自動車アルバルク	20勝22敗	
第7位	レラカムイ北海道	12勝30敗	
第8位	三菱電機ダイヤモンドドルフィンズ	8勝34敗	

[プレーオフセミファイナルの結果]

セミファイナルは4月3日からレギュラーシーズン1位のアイシンと4位の日立が代々木第二体育館で、2位のリンク栃木と3位のパナソニックが宇都宮市立体育館で対戦、それぞれ2勝先勝方式によって行われ、アイシンとリンク栃木が決勝ファイナルへ進出した。

アイシンシーホース ○ 66 - 61 ● 日立サンロッカーズ
アイシンシーホース ○ 61 - 46 ● 日立サンロッカーズ

リンク栃木ブレックス ● 81 - 91 ○ パナソニックトライアンズ
リンク栃木ブレックス ○ 84 - 72 ● パナソニックトライアンズ

【ファイナルの結果】

アイシンとリンク栃木のファイナル戦は4月10日から代々木第二体育館で行われ、リンク栃木2連勝のあと、4月12日に第3戦が行われ延長戦の結果リンク栃木ブレックスが初優勝に輝いた。

いずれの試合も出だしはアイシンがリードする形だったが、その後リンク栃木が強力なディフェンスを武器にして逆転に成功している。特に第3戦は第4ピリオドの残り6秒で、リンク栃木の川村選手が3Pシュートを決めて同点に追いつき延長戦へ突入。延長戦ではリンク栃木がアイシンを圧倒して勝ち、劇的な試合にピリオドを打った。

4月10日

チーム \ P	1	2	3	4	計
リンク栃木ブレックス	23	16	18	31	88
アイシンシーホース	23	26	19	9	77

前半10点リードしたアイシンは、第3ピリオドを終えても68対57と11点のリードを保ち、アイシンのペースかと思いきや第4ピリオドに入ってリンク栃木が猛迫し、残り3分に74対74の同点に追いつく。リンク栃木の猛攻は更に続いて残り1分で81対74と逆転に成功する。アイシンはリンク栃木の激しいディフェンスによってこのピリオドで5分間ノーゴールとなって逆転され、最後は11点差でリンク栃木が1勝をあげた。

4月11日

チーム \ P	1	2	3	4	計
リンク栃木ブレックス	11	30	20	19	80
アイシンシーホース	23	17	9	23	72

第1ピリオドはアイシンのペースだったが第2ピリオドにリンク栃木が追いつき、前半を終えてアイシンが1点リード。第3ピリオドに入ってからリンク栃木のゾーンディフェンスをアイシンが攻めあぐみ、竹内の5ファウル退場もあってリンク栃木が61対49と逆転してリードを奪う。第4ピリオドでリンク栃木は一時18点差までリードを広げる。その後はアイシンが追いつけたが及ばず、結局リンク栃木が8点差で勝利し優勝に王手をかけた。

4月12日

チーム \ P	1	2	3	4	延長	計
リンク栃木ブレックス	10	18	14	16	13	71
アイシンシーホース	20	10	13	15	5	63

第1ピリオド、リンク栃木はミスから10点のリードを奪われる。第2ピリオドになると今度はアイシンのミスによってリンク栃木が追い上げ、前半はアイシンの2点リードで終わる。第3ピリオドは両者互角の戦いで1点差だったが、第4ピリオドにドラマが起こった。残り4

分で47対55と8点リードされたリンク栃木は速い展開から残り2分に3点差に詰め寄り、残り6秒で川村が苦しい体制から3Pシュートを決めて同点とし延長戦へ突入した。

延長戦に入るとリンク栃木はシュートが冴えてリードを奪う。アイシンはリンク栃木のゾーンディフェンスに得点をあげることができず、延長戦で8点差をつけられて敗退。リンク栃木がファイナル戦3連勝で、JBL加入わずか3年目にして初優勝に輝いた。

リンク栃木には元NBAプレーヤーの田臥選手がいることもあって、地元を含めて大変な人気ぶりで、ファイナル戦が行われた代々木第2体育館は栃木からかけつけた応援団で一杯になった。昨今、東京以外のチーム同士が代々木第二体育館で対戦する試合は観客が集まりにくかったが、今回は違って会場は3日間とも満員の状態となった。

この結果ファイナル戦MVPはリンク栃木の田臥勇太選手が選出された。

田臥勇太選手のコメント

この日のために1シーズン、チーム全員で苦しい練習に耐えて戦ってきました。優勝という結果が出て嬉しく思っています。まさか3連勝できるとは思っていませんでしたので、喜びもひとしおです。このチームで優勝できて本当によかったです。

またリンク栃木のヘッドコーチ トーマス・ウィスマン氏は、日本協会の招請により、この後日本男子代表チームの専任ヘッドコーチに就任するため、リンク栃木での采配はこの優勝をもって終わることになった。

トーマス・ウィスマン、ヘッドコーチのコメント

36年間のコーチ人生の中でも、こんなに素晴らしい気持ちを持った選手たちに出会ったことはありません。本当に素晴らしい瞬間を迎えることができました。このような選手たちが集まったチームだからこそ、劣勢のなかでも勝つことができました。選手たちがチームの良い雰囲気を作り、最後に本当のチームになりアイシンを越えることができました。

日本代表ヘッドコーチ就任については自分で決断しましたので、このチームから離れていかなければなりません。このチームでコーチができて本当に良かったですし、楽しかったです。アイシンは非常にタフなチームであり、3連勝できたことが今でも信じられません。タフなゲームを戦い抜いたことで、このチームの特徴は出せたと思っています。



記者会見するウィスマン・ヘッドコーチと田臥選手

栄光の陰に努力あり

JBL初優勝「リンク栃木ブレックス」山谷代表

[編集部]

日本バスケットボールリーグ（JBL）2009～2010シーズンは、去る4月12日に行われたファイナル第3戦をもって「リンク栃木ブレックス」の初優勝が決まり、昨年10月から始まったシーズンを終えた。

日本初の元NBAプレーヤーである田臥選手を擁する「リンク栃木ブレックス」は、JBL参戦3年目にして栄光の座に輝いたが、JBL8チーム中、レラカムイ北海道と並んで2チームだけのプロチームである。JBL参戦時の目標は5年で日本一になることだったが、その目標を2年短縮しての優勝の陰には並々ならぬ努力があった。

プロチーム「リンク栃木ブレックス」を直接運営する会社「㈱リンクスポーツエンターテイメント」社長の山谷拓志氏は東京生まれの東京育ちで39歳、高校卒業後、慶応大学へ進み卒業後はリクルート社へ入社しアメリカンフットボール部選手として活躍。同社アメフトチームは1996年と1998年の日本選手権（ライスボウル）で優勝している。



会社の都合でアメフト部が規模縮小となり企業スポーツの限界を味わう。その後リクルートとは別の会社に移り野球やサッカーのコンサルタントとして活躍、バスケットボールとは縁がなかったが、後述するような機会からリンク栃木の運営を委嘱され、以来若さと粘り強さを発揮してチーム（会社）を引っ張り今日の栄光に輝いた。

今回は、4月16日に栃木県宇都宮市にある「リンク栃木ブレックス」の事務所を訪問し、チームのGM兼社長でもある山谷拓志氏にこれまでの変遷や運営努力についてお話を伺ってみました。

初優勝おめでとうございます。今回の快挙には日本中のファンが注目していると思いますが？

有難うございます。優勝できたことは大変良かったのですが、優勝を想定していなかったこともあるので、その後の処理に追われて多忙な日が続いています。今日も栃木県庁へ優勝のご報告に行ってまいりましたし、明日は宇都宮の繁華街で優勝パレードが予定されています。

セミファイナル、ファイナル戦において、田臥選手と川村選手の活躍が大きかったと思いますが、この両選手を獲得できたのはどのような経緯だったのでしょうか？

田臥勇太選手についてはプロ球団としてのチーム発足当時から、本当の意味でのプロ選手として欲しいと思っていましたが、これはどこのチームでも同様だろうと思います。JBLに昇格が決まった2008年4月頃、アメリカにいる田臥選手の代理人に電話とメールで接触を図

りましたがあっけなく断られました。しかしながら私自身がもと営業畑にいたものですから、相手に1度や2度断られるのは当たり前との感覚でしたので、その後はスタッフがアメリカに行くたびに、アポイントもなしに訪問したり、こちらの意向を代理人に伝え続けました。この間代理人から本人には絶対に連絡を取らないことと厳しい規制がありました。その年の8月になって、田臥選手が日本でプレーする意向があるので条件を提示するようにとの連絡をもらい、恐る恐るFAXで条件を提示しました。

条件提示の中には単なる待遇だけでなく、リンク栃木がプロ球団として田臥選手を必要としている旨も含みましたが、幸いなことに代理人からそちらでプレーしてもいいという知らせが入りました。

その回答をもらった時は夢のようなことで、田臥選手が成田に降り立つまで信じられないような感じでした。当時は貧乏球団でしたのでお金もなく、銀行から借金をして契約金をそろえましたが、結果的に田臥選手の入団は期待以上の効果だったと思います。

川村選手についても条件提示したあと一度断られましたが、ある時本人から直接連絡があって入団してくれることになりました。後からわかったことなのですが提示した条件は他の球団と比べて最低だったそうです。両者に共通して言えることは、周りの方からそれぞれの選手への助言が、リンク栃木は新しい純粹のプロ球団であるということが要因となって良い方向に作用したようです。

選手の獲得や交渉は山谷社長ご自身がなされるのですか？ また新聞によれば大塚商会さんのチームを引き継いだように書かれていますがその辺は？

良い選手の獲得についてはたとえそれが困難なことであっても、可能性があれば何度でも私自身で行います。交渉事で最初から簡単にOKということはまずないと思っていますので、粘り強くこちらの意向を伝えて理解してもらおうよう努めています。大塚商会チームさんとの関係はJBLに参入する際にその枠をいただいただけで、チームを引き継いだわけではありません。

リクルートにおられた時、実業団アメフトの選手としてご活躍されましたが、経験されてないバスケットボールのプロ球団を率いることになった経緯についてお話いただけますか？

日本における実業団スポーツは、企業がそれぞれのスポーツにそれなりに貢献してきたと思います。しかしながら好景気のうちは良いのですが、景気が悪くなれば一企業としてそのスポーツを丸抱えしていくことが困難になるのはごく自然のことだと思います。私自身、実業団のアメフトチーム（現在オービックシーガルズ）で選手として頂点を極めたことがありますが、その後規模縮小と言うショックを味わいました。チームの運営資金獲得のためにあちこち奔走しましたら、やり方によっては協賛をしてくれるところも現れました。アメフトの選手やコーチとして戦術立案に携わり、プレーを分析することが自身の訓練にもなり、営業職と相まってビジネス感覚の向上にもつながりました。バスケットボールのプロ球団立ち上げのとき、アメフトのマイナーさに比べればバスケットボールは登録人口も多いですし、やりようによっては何とかなるという考えでお引き受けしました。

アメフト時代の試練と営業職で鍛えられたお陰で、日本一になるために自分たちは何をすれ

ばいいのかとか、次の手段として何を考えればいいのかということなどが日常ごく普通に行動できるようになりました。

インターネットHPやポスターで拝見すると、かなり多数のスポンサーを獲得しておられますがスポンサー獲得の秘訣と貴球団の財政状況についてお聞かせください。

スポンサー獲得については必ずと言ってよいほど相手さんに対するリターンが必要です。単に広告を出してくれとお願いしても簡単にOKするところはありません。例えば家電量販店のコジマさんの場合、うちの選手が店頭で並んでサイン会を開催したり、トークショーを繰り広げるなどしますと、たちまち3～4百人の人が集まってきます。またある菓子メーカーの宣伝で、リンク栃木のレプリカユニフォームや全選手のサイン入りTシャツなどを抽選で差し上げる懸賞を出したところ、該当商品の売り上げが8倍に増えたという話もあります。企業がスポンサーになる場合、こちらの条件が少しでも当該企業のプラスになることが求められるのだと思います。

財政的には2009年4月～2010年3月の売上（収入）は約4億6千8百万円で、このうち48%が企業からのスポンサー料です。チケットによる売上げが約28%、グッズの売上げが12%位を占めています。

JBLの試合数や体育館の収容能力からして、チケットの売上げはこれ以上望めないと思いますので、リーグとしてチーム数を増やして試合数を多くするなど別の増収対策も検討すべきだと思います。

お陰様で球団の決算としては、平成21年度決算が創業以来初めて黒字となりました。

これは素晴らしい成果だと思いますが、ここに至る地域での活動や営業などについてどのように取り組まれたのでしょうか？

球団を創設展開するに当っては、チーム名や選手などが決まる前から地元に基づいた活動を基本理念として展開してきました。学校などに出向いてのバスケットボール教室や各地域のお祭りの手伝いなど、最初のうちはこちらからお願いしてやらしていただいた状況でした。新聞報道にもある通りこの3年間のバスケットボール教室などは延べ500回以上に達しましたが、最近では相手の方から声がかかってくるようになりしっかりと地元に着定してきました。

本拠地を栃木にしたのはどんなご縁だったのでしょうか？ またリンク栃木チームの活躍が地元栃木県のバスケットボール発展に与える影響は相当なものだと思います。

最初から栃木県に狙いを定めたわけではなく、プロ球団創設時にたまたま栃木県のバスケットボール関係者の方とお会いする機会があり、その時から栃木県にお世話になろうということになりました。栃木県協会には体育館の借用やゲームデータの収集など現在でもいろいろな面でお世話になっており感謝しております。練習の際も栃木県の男子高校生と一緒に練習するなどして、県内のレベルアップに少しでも役立てばと思っていますし、将来栃木県出身の選手がチームに入ってくれば大変喜ばしいことです。今回の優勝が栃木県のバスケットボール界に少しでもお役にたてれば幸いです。

チームスタッフや選手の待遇と管理についてはどのようにやっておられるのでしょうか？

待遇面から言えばJBLチームの中で一番下の方だと思っています。しかしスタッフや選手たちはそれなりに工夫して一生懸命にやってくれています。例えば遠征のときのホテルなどでは一流ホテルには泊らず安宿を探して泊るわけですが、選手が寝るベッドだけはしっかりと休養が取れるものを用意してくれるホテルを探します。また自前の体育館がないため練習場所をあちこち借り回る有様で、まさにジプシースタイルで時間も限られますがコーチが柔軟に工夫してくれて効率のいい練習をしています。

私自身も会社の社長とチームのGMを兼務していますので、経営だけでなくある時はチームGMとしてスタッフや選手とのコミュニケーションを図ったり、チームとして必要なことについて自身で研究したりしているつもりです。したがって立場上からも3カ月に1回程度は選手一人一人と直接面談して話を聞くようにしていますし、プロ選手としての心構えなどについて選手に教育したりしています。次のシーズンではヘッドコーチが日本代表専任コーチとして転出してしまうので、新しいヘッドコーチを招聘しなければならず新たな課題も持っています（その後5月1日にブルース・パーマー氏に決定した）。

また、次期シーズンからJBL2に新しいチームを登録する予定です。JBLも制度が変わって、同じ会社が運営するチーム同士であればJBLチームとJBL2チームの間で選手を交換しても良いことになり、プロ野球のようにチームの中でいい競争環境ができると考えています。最近では経済の影響から各チームとも選手の採用が少なくなっており、このままですとプロになれない選手が発生してしまう心配もできましたので、JBL2にもう1チーム登録して上下で選手の交流、交換をできるようにします。

今回優勝したことで球団に対する好影響ではどんなことがありますか？

優勝したことによってかどうかわかりませんが、地元行政の方の対応が全く変わりました。行政の方には以前からお世話になっており、昨年は宇都宮市立体育館の名称を「ブレックスアリーナ宇都宮」に変えていただきましたが、優勝によって、今まで不備だった体育館の冷暖房設置についても前向きに検討していただくことになりました。本日県知事や市長さんのところへ挨拶に伺ったところ大変な歓迎ぶりです。いつもの県庁へ出向いたときの庁舎会議室ではなく、県知事公館で食事の接待を受けてり、明日は地元の商工会議所が主催しての優勝パレードを行っていただくことになり、スポーツの世界で勝つということの素晴らしさを味わわせてもらっています。今後も勝ち続けることへの努力を惜しんではならないと思っていますが、王者であるとか連覇々々と言っているとチームにとって良いことばかりではないので、



新しいチームを作ってまた挑戦するといった気持でおります。

本日はお忙しいなか有難うございました。

<リンク栃木ブレックスの変遷と横顔>

創成期

2004年有志による設立活動を開始。プロバスケットボールチームを作る会が結成され、署名活動が開始された。このとき約15,000名の署名が集まった。

準備期と発足

2006年準備会社を設立しJBLへの参入を申請したが認められず、JBL2への参入を申請した。2007年にJBL2に所属していた「大塚商会」が脱退したため、資格を譲渡してもらいJBL2に加盟し、10名の選手によって栃木ブレックスを発足した。

発展期

2008年JBL2で優勝。この年JBL所属のオーエスジーがbjリーグへ移ったためにJBLへ昇格。チーム名を「リンク栃木ブレックス」に変更。2008～2009シーズンはJBL第5位の成績に終わる。

2009～2010シーズンでは、ホームゲームとアウェイゲームでJBLチーム中最多の総観客動員数を記録し、リーグ中唯一10万人以上の観客動員数を誇った。

地域活動

栃木のチームであることにこだわり地域の人たちとの積極的な交流は大変なもの。県内の小中学校やミニバスチームへの訪問活動は100回を越え、練習を指導するなど子供たちと一緒にになってさまざまなプログラムをこなす。地域のお祭りやイベントに選手が参加してパフォーマンスを繰り広げ、ブレッキーとブレクシーが福祉施設を訪問して皆を楽しませたりもする。さらに交通安全運動にも一役買ってイベントを繰り広げ警察署長から感謝状を授与された。

これらの地域活動は述べ500回以上に及び、地域の人々に愛されるチームとなっている。

ファームチーム

ブレックスチームの強化に向けた選手の中長期的育成を目的に、下部育成チーム「D-TEAM」(プロ野球でいう二軍チーム)を結成。現在12名の選手がおりクラブ大会などに出場しているが、選手の実力はかなりのものでトップチームの選手と力は伯仲している。次のシーズンからJBL2に参戦するが、これによって選手同士の競争意識も高まりトップチームの強化がさらに進みそうである。



ブレッキーとブレクシー



クマをモチーフにしたマスコットキャラクターの「ブレッキー」は身長195cm、会場では子供たちの人気の的、さまざまなイベントに参加したり試合を盛り上げたりしている。

一方ブレクシーは専属のチアリーダー、華やかな演技で会場を盛り上げ、魅力的なダンスとバック転、宙返りなどアクロバットな技も披露する。

代表の山谷拓志氏「トップリーグトロフィー」を受賞

このたび代表の山谷氏がトップリーグトロフィーを受賞した。トップリーグトロフィーとは国内のトップリーグ参加8競技10リーグの各年度の優勝もしくは優秀な成績を収めた男女チームの運営・マネージメントに貢献したGM等に対して、その栄誉を讃えることを目的に、日本体育協会の下部組織である日本トップリーグ連携機構が平成18年度から制定されたもの。運営機構の会長は元総理の森喜朗氏。

日本一の副賞は日本一

JBLを初制覇したリンク栃木ブレックスの本拠地である栃木県宇都宮市では、4月17日に優勝祝賀パレードを同市のメインストリートで盛大に行った。その際、宇都宮市長特別賞の副賞として餃子100人前がチームに贈呈された。餃子消費量日本一の餃子の街を売り込んでいる宇都宮市は「日本一には日本一のもの」と贈呈を即決したそうで、大きな餃子の目録を贈られた川村選手は大はしゃぎしていた。



WJBLも全日程終了

女王には2年連続JOMOが輝く

[編集部]

WJBL2009～2010シーズンは、昨年9月から開幕し全チーム4回戦総当たりのレギュラーシーズンを終え、上位4チームによるプレーオフセミファイナル、勝った2チームがファイナル戦へ進み去る2月28日のファイナル第3戦をもって全日程を終了した。

2月25日から始まったファイナルは、JOMO対トヨタ自動車の5回戦3勝先取り方式であり、JOMOが圧倒的な強さを発揮して3連勝し2年連続で優勝を果たした。

トヨタ自動車は、レギュラーシーズンのリーグ戦でJOMOに3勝1敗と勝ち越して初優勝を狙ったが、お正月の全日本総合決勝でJOMOに敗れた後、このファイナルでも3連敗して悲願は実らなかった。

[レギュラーシーズン成績]

Wリーグ

第1位	トヨタ自動車アンテロープス	24勝	4敗
第2位	JOMOサンフラワーズ	22勝	6敗
第3位	富士通レッドウェーブ	19勝	9敗
第4位	日本航空JALラビッツ	13勝	15敗
第5位	デンソーアイリス	12勝	16敗
第6位	シャンソン化粧品シャンソンVマジック	12勝	16敗
第7位	アイシン・エイダブリュウイングス	7勝	21敗
第8位	三菱電機コアラーズ	3勝	25敗

WIリーグ

第1位	日立ハイテククーガーズ	14勝	2敗
第2位	エバラヴィッキーズ	11勝	5敗
第3位	トヨタ紡績サンシャインラビッツ	10勝	6敗
第4位	山梨クィーンビース	5勝	11敗
第5位	ビッグブルー東京	0勝	16敗

[セミファイナルの結果]

レギュラーリーグの上位4チームによって争われたセミファイナルは、1位と4位及び2位と3位の対戦で、3回戦2勝先取り方式で2月13日から開催。下記の戦績でトヨタ自動車とJOMOがファイナルへ進んだ。

JOMO	○	68	—	59	●	富士通	トヨタ自動車	○	62	—	44	日本航空
JOMO	●	60	—	73	○	富士通	トヨタ自動車	○	102	—	63	日本航空
JOMO	○	77	—	73	●	富士通						

[入れ替え戦の結果]

WJBLではWリーグ最下位とWIリーグ第1位チームによる入れ替え戦を行い、翌シーズンの各リーグチームを決定している。今回はWIリーグの日立ハイテクが1部に返り咲いた。

日立ハイテク ○ 79—70 ● 三菱電機

日立ハイテク ● 66—70 ○ 三菱電機

日立ハイテク ○ 76—74 ● 三菱電機

[ファイナルの結果]

2月25日 松本市総合体育館

チーム \ P	1	2	3	4	合計
JOMO	15	10	20	17	62
トヨタ自動車	13	10	15	21	59

前半は互角の戦いだったが第3ピリオドでJOMOが一步抜け出す。しかし第4ピリオドにトヨタ自動車が逆転に成功し3点のリードを奪う。残り2分ごろから両チーム激しい攻防で1点差の戦いとなったが、最後にトヨタ自動車のファウルによってフリースローを確実に決めたJOMOが勝利した。

2月27日 ぐんまアリーナ

チーム \ P	1	2	3	4	合計
JOMO	25	12	23	23	83
トヨタ自動車	18	8	15	25	66

第1ピリオドの残り3分まで互角の戦いだったが、その後トヨタ自動車はJOMOの激しいディフェンスに得点が思うように伸びず、前半で11点差がついた。後半に入ってもJOMOのペースで進み第3ピリオドが終わったところでJOMOが19点のリードを奪う。第4ピリオドでようやく互角の戦いとなったが、それまでの得点差が響いてJOMOの圧勝となった。

2月28日 代々木第二体育館

チーム \ P	1	2	3	4	合計
JOMO	18	21	17	25	81
トヨタ自動車	8	15	18	17	58

第1ピリオド、トヨタ自動車がミスから自滅した格好となった。タイムアウト後もリズムを取り戻せず10点のビハインドとなる。JOMOがその後もペースをつかんで試合を進めたのに対して、トヨタ自動車は得点が思うように入らず、終わってみれば23点の大差で敗れた。JOMOはこれで昨シーズンに続いてWJBLで2連覇を達成した。

このファイナルシリーズではJOMOのガード陣、大神と吉田の存在が大きかったといえよう。肝心のときには、どちらかのガードが巧妙なパスと自らの得点で相手にダメージを与えていたことが印象深い。

molten[®]
For the real game



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

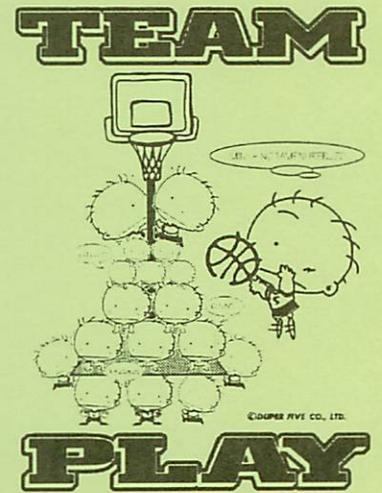
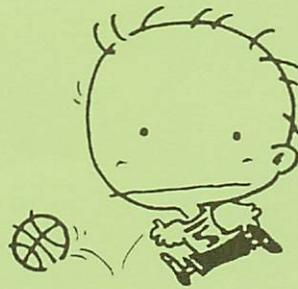
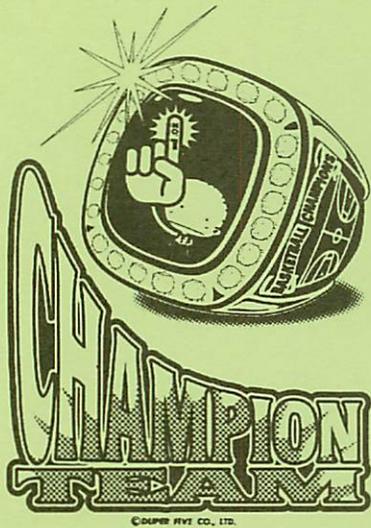
本大会唯一の公式試合球

BGL7
GL7 国際公認球 検定球
貼付・天然皮革、7号球



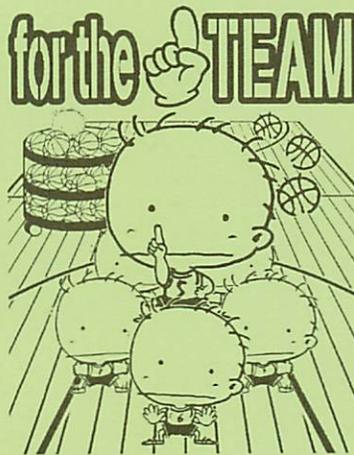
www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川15丁目5-7



DUPER.

表現の自由人。



DUPER.®

デューパーファイブ株式会社
〒130-0023 東京都墨田区立川3-3-5
TEL . (03)3632-7045 (代表)
FAX . (03)3632-8327

URL : <http://www.duper.co.jp>

E-mail: info@duper.co.jp